



# Sun SPARC® Enterprise T1000 サーバ プロダクトノート

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 820-1537-10  
2007 年 5 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

富士通株式会社は、本製品の一部に対して技術提供および調査を行いました。

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して米国 Sun Microsystems 社および富士通株式会社がある知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社およびサン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものではありません。本書は、富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または米国 Sun Microsystems 社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, Netra, Sun StorEdge, SPARC Enterprise, docs.sun.com, OpenBoot, SunVTS, Sun Fire, SunSolve, CoolThreads, J2EE は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. 社および富士通株式会社が米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のものも第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

<b>原典:</b>	<i>Sun SPARC Enterprise T1000 Server Product Notes</i> Part No.: 820-0021-10 Revision A
------------	---



Adobe PostScript



# 目次

---

- 1. SPARC Enterprise T1000 サーバに関する重要な情報 1
  - SPARC Enterprise T1000 サーバのサポート 1
    - 技術サポート 1
    - ソフトウェアリソース 2
    - マニュアルのダウンロード 2
  - サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン 2
    - システムファームウェアの更新 3
  - パッチ情報 3
    - 必須パッチ 3
    - オプションカード用のパッチ 3
  - 既知の問題と回避方法 4
    - /etc/system ファイルの必須エントリ 4
      - ▼ /etc/system ファイルの必須エントリを確認および作成する 4
    - 一般的な機能に関する問題 5
      - シャーシのカバーを取り外しにくい場合がある (CR 6376423) 5
      - SunVTS CPU テストを実行すると、ウォッチドッグタイムアウトが発生して停止する (CR 6498483) 5
      - サポートされている Sun Explorer ユーティリティーのバージョン 5
      - 無効なメモリ構成によってシステムに電源が入らない (CR 6300114) 6

ディスクドライブの書き込みキャッシュはデフォルトで使用可能になっている 6

▼ 書き込みキャッシュを使用不可にする 6

特定の問題と回避方法 8

マニュアルの正誤情報 11

ALOM CMT ガイドでの日付の同期に関する記載内容の誤り 11

# SPARC Enterprise T1000 サーバに関する重要な情報

---

本書では、SPARC Enterprise T1000 サーバに関する重要な最新情報について説明します。

このマニュアルは、次のセクションで構成されています。

- 1 ページの「SPARC Enterprise T1000 サーバのサポート」
- 2 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」
- 3 ページの「パッチ情報」
- 4 ページの「既知の問題と回避方法」

---

## SPARC Enterprise T1000 サーバのサポート

このセクションでは、技術サポート、ソフトウェア、およびマニュアルの入手先について説明します。

### 技術サポート

SPARC Enterprise T1000 サーバのマニュアルに記載されていない技術的な質問または問題がある場合は、購入先に問い合わせてください。米国またはカナダのユーザーの場合は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) に問い合わせてください。

## ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise T1000 サーバには、Solaris™ オペレーティングシステムおよび Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合は、次の Web サイトにアクセスしてください。ソフトウェアのダウンロード方法が記載されています。

<http://www.sun.com/software/preinstall/>

## マニュアルのダウンロード

SPARC Enterprise T1000 サーバの設置、管理、および使用に関する手順は、SPARC Enterprise T1000 サーバのマニュアルセットに記載されています。次の Web サイトから、マニュアルセット全体をダウンロードして入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

---

注 – 本書に記載されている情報は、SPARC Enterprise T1000 のマニュアルセットの情報よりも優先されます。

---

## サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

このリリースの SPARC Enterprise T1000 サーバでサポートされるファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョンは、次のとおりです。

- Solaris 10 11/06 オペレーティングシステム (OS)
- Sun Java Enterprise System ソフトウェア (Java ES 2005Q4)
- システムファームウェア 6.3.5 (Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT 1.3.5 ソフトウェアおよび OpenBoot™ 4.25.3 ファームウェアを含む)



## システムファームウェアの更新

ファームウェアの更新は、SunSolve<sup>SM</sup> ([sunsolve.sun.com](http://sunsolve.sun.com)) からパッチリリースを介して入手できます。システムファームウェアを更新する方法の詳細は、『Sun SPARC Enterprise T1000 サーバ インストールガイド』の付録 A を参照してください。flashupdate コマンドの詳細は、『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.x ガイド』を参照してください。

---

注 – システムファームウェアを更新すると、ALOM CMT ソフトウェアおよび OpenBoot ファームウェアも更新されます。

---

---

## パッチ情報

### 必須パッチ

現時点では、SPARC Enterprise T1000 サーバに対する必須パッチはありません。

---

注 – 購入先に問い合わせサポートを受ける前に、すべての必須パッチがサーバにインストールされていることを確認してください。これらのパッチのインストールに加えて、SunSolve Web サイトを定期的にチェックして、利用可能な新しいパッチがないかどうかを確認してください。

---

### オプションカード用のパッチ

サーバにオプションカードを追加する場合は、それぞれのカードに関するマニュアルおよび README ファイルを参照して、追加のパッチが必要かどうかを確認してください。

# 既知の問題と回避方法

## /etc/system ファイルの必須エントリ

このセクションでは、/etc/system ファイルの必須エントリについて説明します。必須エントリは、サーバの最適な機能性を確保するためにこのファイルに指定されている必要があります。

/etc/system ファイルに次のエントリを指定します。

```
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x2001
```

### ▼ /etc/system ファイルの必須エントリを確認および作成する

この手順は、次の場合に実行してください。

- サーバを配備する前に、エントリが存在することを確認する。
- Solaris OS をインストールまたは更新したあとにエントリを作成する。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. /etc/system ファイルに必須の行が存在するかどうかを確認します。

```
# more /etc/system
*ident  "@(#)system      1.18 05/06/27 SMI" /* SVR4 1.5 */
*
* SYSTEM SPECIFICATION FILE
.
.
.
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x2001
.
```

3. ファイルに必須エントリがない場合は追加します。
  - a. エディタを使用して /etc/system ファイルを編集し、エントリを追加します。
  - b. サーバを再起動します。

## 一般的な機能に関する問題

このリリースには、次に示す機能に関する問題があります。

### シャーシのカバーを取り外しにくい場合がある (CR 6376423)

シャーシのカバーが非常に取り外しにくいことがあります。カバー上のロックボタンを強く押しすぎると、カバーの正面の端が曲がって妨げになる場合があります。また、シャーシ側面のガスケットにはゴム素材が使用されているため、カバーがスライドしにくい場合もあります。

カバーを取り外す際は、カバーのロックボタンを軽く押したまま、カバーを少し正面方向に押しつけてロックを外しやすくしてから、シャーシの背面方向に 12 mm (0.5 インチ) ほどカバーをスライドさせます。これで、カバーをシャーシから取り外せるようになります。

### SunVTS CPU テストを実行すると、ウォッチドッグタイムアウトが発生して停止する (CR 6498483)

Coolthreads™ サーバで SunVTS™ CPU テストを実行中に、Solaris のウォッチドッグタイムアウトが発生し、システムが停止しました。

**回避方法:** SunVTS を実行する間は、ALOM CMT の `sys_autorestart` 変数を `none` に設定してください。この設定により、ALOM CMT は警告メッセージを表示しますが、サーバをリセットすることはありません。

### サポートされている Sun Explorer ユーティリティーのバージョン

SPARC Enterprise T1000 サーバは、Sun Explorer 5.7 以降のデータ収集ユーティリティーではサポートされますが、これより前のリリースのユーティリティーではサポートされません。プリインストールされた Java ES パッケージから Sun Cluster をインストールすると、前のバージョンのユーティリティーがシステムに自動的にインストールされます。Java ES ソフトウェアのいずれかをインストールしたあとに、次のように入力して、使用しているシステムに前のバージョンの Sun Explorer 製品がインストールされていないかどうかを確認してください。

```
# pkginfo -l SUNWexplo
```

前のバージョンが存在する場合は、それをアンインストールして version 5.7 以降をインストールしてください。Sun Explorer 5.7 をダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。

## 無効なメモリー構成によってシステムに電源が入らない (CR 6300114)

メモリーランク 0 に必要なメモリーが割り当てられていないと、システムの電源が入りません。ランク 0 のすべてのソケットに、常にメモリーを取り付けておく必要があります。

## ディスクドライブの書き込みキャッシュはデフォルトで使用可能になっている

SPARC Enterprise T1000 サーバのディスクドライブでは、読み取りキャッシュと書き込みキャッシュの両方が、デフォルトで使用可能になっています。この問題があるのは、SATA ドライブのみです。キャッシュを使用すると、ディスクドライブの読み取りおよび書き込みのパフォーマンスが向上します。ただし、システムの AC 電源の停電によって、書き込みキャッシュ内のデータが失われる可能性があります。AC 電源の停電によって、読み取りキャッシュに問題が発生することはありません。

書き込みキャッシュを使用不可にする場合は、Solaris の `format -e` コマンドを使用します。



---

**注意** - これらの設定は、永続的には保存されません。書き込みキャッシュの設定は、システムを起動するたびにリセットする必要があります。

---

### ▼ 書き込みキャッシュを使用不可にする

1. Solaris 環境で次のように入力して、`format` のエキスパートモードに切り替えます。

```
# format -e
Searching for disks...done
AVAILABLE DISK SELECTIONS:
    0. c0t0d0 <ATA-HDS ...
```

2. ディスク番号 0 を指定します。

```
Specify disk (enter its number): 0
selecting c0t0d0
...
```

`format` メニューが表示されます。

3. 次のように入力して、`cache` オプションを選択します。

```
format> cache
```

4. 次のように入力して、`write_cache` オプションを選択します。

```
cache> write_cache  
WRITE_CACHE MENU:  
...
```

5. 書き込みキャッシュの現在の設定を表示します。

```
write_cache> display  
Write Cache is enabled
```

6. 書き込みキャッシュを使用不可にします。

```
write_cache> disable  
This setting is valid until next reset only. It is not saved  
permanently.
```

7. 新しい設定を確認します。

```
write_cache> display  
Write Cache is disabled
```

8. `write_cache` モードを終了します。

```
write_cache> quit  
CACHE MENU:  
...
```

9. `cache` モードを終了します。

```
cache> quit  
FORMAT MENU:  
...
```

## 10. format コマンドを終了します。

```
format> quit
```

## 特定の問題と回避方法

表 1 に、既知の問題とそれに割り当てられている変更要求 ID (CR ID) を示します。変更要求 ID は以前バグ ID と呼ばれていました。この表には、これらの問題に対して実行可能な回避方法も示します。

表 1 特定の問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6297813	起動後に、次のメッセージが表示される場合がある。 <ul style="list-style-type: none"><li>• svc.startd[7]: [ID 122153 daemon.warning] svc:/system/power:default: Method or service exit timed out. Killing contract 51.</li><li>• svc.startd[7]: [ID 636263 daemon.warning] svc:/system/power:default: Method "/lib/svc/method/svc-power start" failed due to signal KILL.</li></ul>	Solaris の電源管理システムが必要な場合は、電源管理を手動で再起動するか、またはサーバを再起動します。Solaris の電源管理システムが不要である場合は、処置は必要ありません。
6310384	サーバにキーボードが接続されていない場合でも、SunVTS USB キーボードテスト (usbtest) が、キーボードが存在すると報告することがある。	usbtest を実行しないでください。
6314590	ALOM CMT の break コマンドおよび OpenBoot PROM の go コマンドを実行すると、システムのハングアップまたはパニックが発生する場合がある。	コンソールのハングアップまたはパニックが発生した場合は、ALOM CMT の reset コマンドを使用してシステムをリセットしてください。
6317382	OBP プロンプトで、認識できないコマンドまたは単語を入力すると、システムによってエラーが誤って返され、サーバがハングアップする場合がある。この動作は、Solaris から OBP プロンプトに移行するときのみ発生する。次のエラーメッセージが誤って返される。 ERROR: Last Trap	このメッセージは無視してください。コンソールのハングアップまたはパニックが発生した場合は、ALOM CMT の reset コマンドを使用してシステムをリセットしてください。
6318208	POST または OBP reset-all によって「Host system has shut down」という警告が生成される。	これは、reset-all コマンドの実行後に発生する正常な動作です。この場合のメッセージは、問題を示すものではありません。

表 1 特定の問題と回避方法 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6331819	システム資源の不足によって、SunVTS のメモリーテストまたは CPU テストが失敗する場合があります。構成されたメモリーが少ない UltraSPARC® T1 CMT CPU ベースの (sun4v) エントリーレベルサーバで、並行して実行する SunVTS 機能テストのインスタンスが多すぎると、システム資源の不足によって SunVTS テストが失敗することがある。たとえば、次のようなエラーメッセージが表示される。 System call fork failed; Resource temporarily unavailable	回避方法: SunVTS テストのインスタンスの数を減らすか、または SunVTS 機能テストを個別に実行してください。さらに、CPU テストの遅延の値を大きくするか、テスト用の予約メモリー領域を増やすこともできます。
6346149	ネットワークの負荷が高くなるにしたがって、システムのネットワークポートの最大スループットが予想以上に低下する。	現時点では、回避方法はありません。
6346170	ALOM CMT の showfru コマンドで、「THU JAN 01 00:00:00 1970」という初期時刻が表示される。	この日付の時刻表示は無視してください。現時点では、回避方法はありません。
6348070	PCI デバイスに関する誤った Ereport エラーメッセージが生成される場合があります。	現時点では、回避方法はありません。PCI デバイスに関する誤った Ereport を解消するために必要な FMA 診断ソフトウェアは、まだ開発中です。
6356449	poweron コマンドを ALOM CMT リセットの直後に実行した場合、システムに電源が投入されない。	スクリプトを使用して ALOM-CMT をリセットし、システムに電源を投入する場合は、poweron コマンドの前に 1 秒間の待機時間を入れてください。
6363820	disablecomponent コマンドと enablecomponent コマンドを交互に繰り返すと、showcomponent コマンドがハングアップする。	resetsc コマンドを使用して ALOM-CMT をリセットしてください。
6368944	仮想コンソールが、114 文字を超えるペーストバッファを受け付けられない。これが要因となって、wanboot の NVRAM パラメータ network-boot-arguments が設定されない。	114 文字より小さい断片に分けてカット & ペーストを実行するか、またはカット & ペーストを使用しないでください。
6370233	Dtrace 機能が不正確な CPU xcall を戻す場合があります。	安定 (Stable) インタフェースではありませんが、Dtrace の fbt プロローブを send_one_mondo および send_mondo_set に対して実行すると回避方法になります。send_mondo_set については、cpuset_t 引数から、クロスコールを送信した CPU の数を検出します。
6372709	FMA の fltlog ファイルの最大サイズが制限される場合があります。	Solaris の logadm(1M) コマンドで、デフォルトのログローテーションオプションを変更することによって制限を解除してください。

表 1 特定の問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6376423	シャーシのカバーが非常に取り外しにくい場合がある。	5 ページの「シャーシのカバーを取り外しにくい場合がある (CR 6376423)」を参照してください。
6389912	電源投入中またはシステムのリセット中に、誤ったエラーメッセージがログに記録される。 このエラーメッセージは、次のセグメントに含まれる。 ereport.io.fire.pec.lup	このメッセージは無視してください。
6405226	ALOM-CMT の console コマンドを使用してホストにアクセスすると、コンソールの応答が遅くなる場合がある。	最適な応答性を確保するには、ホストが OS の起動を完了した直後にホストのネットワークインタフェースを介してホストにアクセスしてください。
6508432	修正可能なエラー (CE) が大量に発生する場合がある。これらのエラーが修正可能であっても、システムパニックが発生する可能性がある。	問題を回避するには、/etc/system に次のエントリを追加します。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001 4 ページの「/etc/system ファイルの必須エントリ」を参照してください。
6538717	showfru コマンドが Micron 社の DIMM を Seagate 社の DIMM として報告する。たとえば、次のように報告される。 [LE2]FRU_PROM at MB/CMP0/CH0/R0/D0/SEEPROM /SPD/Timestamp: MON APR 17 12:00:00 2006 /SPD/Description: DDR2 SDRAM, 1024 MB /SPD/Manufacture Location: /SPD/Vendor: Seagate <--Micron と表示されるべき箇所	現在、回避方法はありません。
6520334	SSH が使用可能でない場合、鍵を出力するために ssh-keygen -l コマンドを実行すると、次のエラーメッセージが生成される。 sc> ssh-keygen -l -t rsa Fingerprint file cant be opened error 380003 このエラーメッセージは、次のように読み替える必要がある。 ssh is not enabled.	SSH を使用可能にします。
6472072	ALOM の Break-D によってパニックダンプを取得すると、次のようなパニックメッセージが表示される。 Unrecoverable hardware error.	ハードウェアエラーは発生していません。このメッセージは無視しても問題ありません。



表 1 特定の問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6500293、 6502078	boot-r の実行後に prtdiag-v コマンドを実行すると、SPARC Enterprise T1000 または T2000 サーバ上のホストバスアダプタが表示されない場合がある。	再構成を行わずにシステムを再起動します。
なし	SPARC Enterprise T1000 または T2000 サーバの ttya (Dsub 9 ピン) に次のデバイスが接続されている場合、Solaris OS をインストールできない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SH4124T (Dsub 9 ピン)</li> <li>• Cisco Catalyst2960 (RJ45)</li> <li>• SPARC Enterprise T2000 (Dsub 9 ピン)</li> </ul>	ttya (Dsub 9 ピン) に何も接続されていない状態で Solaris OS をインストールします。
なし	SPARC Enterprise T1000 または T2000 サーバの ttya (Dsub 9 ピン) に次のデバイスが接続されている場合、ALOM コンソールにログインできない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SH4124T (Dsub 9 ピン)</li> <li>• Cisco Catalyst2960 (RJ-45)</li> <li>• SPARC Enterprise T2000 サーバ (Dsub 9 ピン)</li> </ul>	ttya (Dsub 9 ピン) に何も接続されていない状態で ALOM コンソールにログインします。または、ALOM を使用するときに、RJ-45 ケーブルを使用して ALOM に接続します。
6542956	UltraSPARC T1 1.4GHz プロセッサを使用するシステムでは、大きな負荷がかかると showenvironment テーブルの MB/V_VCORE パラメータに不正な警告が表示される場合がある。 これは、適時に結果を提供する showenvironment コマンドで値の平均の算出が実行されないことが原因で発生する。このため、センサーまたは環境の読み取り値がしきい値を超えても、障害が生成されないという状況が発生する場合がある。この状況が発生すると、システムログと showenvironment テーブルが一致しなくなる。	現在、有効な回避方法はありませぬ。

## マニュアルの正誤情報

### ALOM CMT ガイドでの日付の同期に関する記載内容の誤り

発行済の ALOM CMT ガイドでの showdate コマンドの記載内容に誤りがあります。誤っている内容は次のとおりです。

ALOM CMT の日付を表示します。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されますが、ALOM CMT の時刻は現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。

正しい内容は次のとおりです。

ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。